

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年																	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~5日	6月 ~12日	6月 ~19日	6月 ~26日	7月 ~3日	7月 ~10日	7月 ~17日	7月 ~24日	7月 ~31日	8月 ~7日	8月 ~14日	8月 ~21日	8月 ~28日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	14	12	38	35	36	30	21	7	5	7	8	15 (16)	15
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	24	24	27	15	4	9	5	7	5	12	10	11 (12)	18
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	4	2	3	0	0	0 (1)	1
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	2	0	1	0	3	2	1	4	6	4	0	2 (3)	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	4	2	8	8	5	7	4	3	7	7	3	4 (6)	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	3	2	2	1	3	6	4	1	3	5	3	5 (6)	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	1	1	1	0	0	0 (1)	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	2	1	5	1	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
*前回のその他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第34週(8月22日~8月28日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7	1		1		3	2	
三類	5	腸管出血性大腸菌感染症	5	1				3		1
四類	5	日本紅斑熱	4					3	1	
		レジオネラ症	1	1						
五類	7	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2							2
		梅毒	5					5		
新型コロナウイルス感染症	37,203	新型コロナウイルス感染症	37,203	4,409	2,979	3,234	836	16,515	3,080	6,150

(注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和4年第34週(8月22日~8月28日)

1 新型コロナウイルス感染症

第34週に16,515件の報告があり多い状況が続いています。一人一人が、感染予防対策を徹底することが大切です。また、急速な感染拡大により医療機関がひっ迫していますので、無症状の方が陰性確認のための検査を受ける場合などは、医療機関ではなく、広島県が運営するPCRセンターや登録薬局等を利用しましょう。

2 梅毒

今年の累計は213件となり、昨年の年間報告数(105件)の2倍を上回りました。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあるため、早期発見・早期治療が大切です。

梅毒の年間報告数の推移(広島市)



3 日本紅斑熱

3件の報告があり、今年の累計は7件となりました。日本紅斑熱の報告は、年々増加しており注意が必要です。山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着るなど、マダニに咬まれないように注意しましょう。また、治療が遅れると重症化することもあるので、マダニに咬まれた後に発熱等がある場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。

4 ヘルパンギーナ

定点当たり1.22人の報告があり多い状況です。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	0.03			小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.06		
小児科	咽頭結膜熱	-	-	0.27			小児科	RSウイルス感染症	44	1.91	1.32		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.43	1.08			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05		
	感染性胃腸炎	41	1.78	3.16			眼科	流行性角結膜炎	2	0.25	0.68		
	水痘	1	0.04	0.29			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	37	1.61	1.28				無菌性髄膜炎	-	-	0.03		
	伝染性紅斑	-	-	0.16				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.03		
	突発性発しん	1	0.04	0.36				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	28	1.22	0.62			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-			

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	73	20歳代、70歳代、80歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	3	20	20歳代・O152、30歳代・O157、50歳代・O157
4	日本紅斑熱	3	7	60歳代・2人、70歳代・1人
5	梅毒	5	213	10歳代・2人、20歳代・1人、30歳代・1人、40歳代・1人